学校法人 青山学院

2014年度 事業計画書

Aoyama Gakuin since 1874

目　次

2014 年度 事業計画書作成にあたって・学校法人青山学院事業計画　基本方針 …… 2

Ⅰ. 人間教育の再創造
1. キリスト教教育の促進 …… 3
2. 教育力の向上 …… 4
3. 一貫教育の充実
1）各設置学校間の連携強化 …… 4
2）4-4-4 制英語一貫教育の実践 …… 5
4. 国際交流の活性化 …… 5

Ⅱ. 環境の整備
1. キャンパスの再開発
1）教育課程移行後のキャンパスの整備 …… 6
2）高等部校舎の建て替え …… 7
3）中等部校舎の建て替え …… 7
4）既存設備の整備 …… 7
2. 学生への支援
1）学習支援 …… 7
2）経済的支援 …… 8
3）進路・就職への支援 …… 8
3. 教職員への支援 …… 9
4. 学院史編纂と学院史資料展示への取り組み …… 9

Ⅲ. 戦略の強化
1. 危機管理
1）大災害対策 …… 10
2）安全衛生対策 …… 10
2. 財務力の強化 …… 10
3. 組織・運営体制の強化
1）広報体制の強化 …… 11
2）企画立案機能の強化 …… 12
3）情報系の整備 …… 12
4. 校友との連携強化 …… 12

Ⅳ. 140 周年 記念事業の実施 …… 13

（巻末）学校法人青山学院 2014 年度事業計画 …… 14

2014 年度　事業計画書作成にあたって

青山学院は、1874（明治 7）年に米国のメソジスト監督教会の信仰と祈りをもって派遣された宣教師たちにより始められ、本年 11 月 16 日に創立 140 周年を迎えます。「キリスト教信仰にもとづく教育」という創立当初からの理念は揺らぐことなく連綿として続いており、幼稚園から大学・大学院までを擁する日本有数の総合学園に成長した現在も、先達たちの努力にならい、常によりよい教育を目指して取り組みを続けております。

2013 年度に大学では「就学キャンパス再配置」を実施し、約 7,000 人の学生が相模原キャンパスから青山キャンパスに移行しました。これにより、両キャンパスで全学年を通じた教育に連続性が確立され、教育の質の向上や充実はもとより、学びの一体感と学生同士の一体感の醸成が期待されています。私立学校を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いており青山学院も例外ではありませんが、教育機関として課せられた使命を遂行し、可能な限り社会と時代の要請に応えるために、今後も経営基盤の維持・強化を図りながら、環境を整備し、青山学院ならではの質の高い教育・研究活動を目指してまいります。

本計画書には、各設置学校及び各事務部署が策定した 2014 年度事業計画の中から、「2014 年度学校法人青山学院事業計画　基本方針」に合致する計画を中心に概要を記載しております。すべての取り組みを網羅しているものではございませんが、具体的内容をご確認ください。

140 周年を迎える 2014 年度は、同時に 150 周年に向けた新たな一歩を踏み出す年でもあります。

青山学院は、21 世紀にふさわしい総合学園の確立のため、2014 年度も多様な取り組みを推進し、教職員一丸となって事業計画の実現に邁進してまいりますので、ご支援・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2014 年度　学校法人青山学院事業計画　基本方針

- ◆ 教育の基本となるキリスト教について、学院に関わる一人ひとりの理解を深め、各設置学校が掲げる教育理念にもとづいた教育の実現を図る
- ◆ 学院発展のため、財務力、組織・運営体制の強化を図る
- ◆ 国際理解教育を充実させる
- ◆ 青山キャンパスの再開発及び相模原キャンパスの整備を着実に推進する
- ◆ 学生への支援（学習支援、経済支援、進路・就職支援等）を強化する
- ◆ 「キャンパスの安全・安心」を第一に、災害対策を主とした危機管理の強化を図る
- ◆ 150 周年を見据えた 140 周年記念事業を ALL 青山で実施する

Ⅰ．人間教育の再創造

1．キリスト教教育の促進

建学の精神の根幹を成すキリスト教教育実践のため、青山学院では、「礼拝」「授業」「キリスト教活動」の三つの領域について年齢に見合ったプログラムを実施し、一人ひとりが神に愛されているかけがえのない存在であることを学んでいます。また、こうしたキリスト教教育を促進するため、園児・児童・生徒・学生に限らず、保護者や教職員がキリスト教に触れ、親しむ機会を増やしていけるような取り組みも続けています。それぞれの学校で日常として様々な取り組みが行われている中、2014 年度事業計画としては下記の取り組みを進めていきます。

【学院】

・学院各設置学校の礼拝において、礼拝説教者・奨励者の相互交流を行います。大学の礼拝においては各設置学校の宗教主任を招いて説教をしてもらうことを計画し、同様に各設置学校における礼拝においては大学宗教主任、クリスチャンの大学生たちを招き礼拝で奉仕を行います。大学聖歌隊、大学ハンドベルクワイヤも各部の礼拝奉仕を予定しており、この活動は学院全体のキャンパス・ミニストリーへの理解を深めると同時に、礼拝参加者に各部の垣根を超えた「青山学院の一員」としての自覚を促し、礼拝出席への意欲を高める一助ともなっています。また、青山・相模原両キャンパスで週一回実施している教職員を対象とした聖書に親しむ会への積極的な参加を呼びかけ、「建学の精神への理解」へつなげていきます。

・東日本大震災から 1 週間後の 2011 年 3 月 18 日に、学院関係者が集い被災者の方々を覚えて初めての祈祷会が持たれて以来、青山学院では、この祈祷会を定期的に行っています。2014 年度も引き続き毎月 11 日に祈祷会を持ち、祈りにおける絆を堅持します。

【大学】

2013 年度の大学の就学キャンパス再配置により、約 7,000 人の学生が相模原キャンパスから青山キャンパスへ移行したことで、両キャンパスにおけるキリスト教活動にも大きな変化がもたらされましたが、青山キャンパスでの人数の増加への対応もスムーズに進み、相模原キャンパスの活動の見直しと活性化も順調に進捗しています。2014 年度は、前年度の取り組みの検証と改善を行い、環境変化に対応したキリスト教活動の見直しと充実化を図ります。

【高等部】

・東日本大震災被災地の学校である宮古高校の生徒の皆さんへの「復興への励まし」に少しでもつながること、また被災地を訪問した高等部生たち一人ひとりが、キリスト教教育の「助けを必要とする人の隣人となる」という聖書の教えを実践的に捉え大きな学びとすることを期待して始めた両校の交流も、4 年目を迎えます。2014 年度は運動部生徒が交流試合のため宮古高校を訪問するほか、本学高等部の文化祭に宮古高校の生徒会執行部の生徒を招いて、さらなる交流を深めていきます。

・世界の貧困の問題について考える機会を持つことは、豊かな心と広い視野を持つ人物の育成に大変重要な役割を担うというキリスト教教育の観点から、高等部では 2012 年度より、CFJ（チャイルド・ファンド・ジャパン）フィリピン訪問プログラムに参加しています。2014 年度は秋に生徒の参加者を募集し、2 回目の訪問を行う予定です。また、教員と生徒を交えたフィードバックの会や、プログラムに参加した生徒を中心に継続的に貧困の問題を生徒に考えさせる学習会の開催等、プログラムに関する啓蒙も行います。

【幼稚園】

キリスト教信仰を基底とする保育を行う幼稚園として、保育者の信仰の涵養は重要です。2014 年度は学期末に各 1 回(7 月、12 月、3 月)学院のクリスチャンの教員に「信仰」について証をして貰い、保育者一人ひとりがキリスト教保育である信仰の励ましを受けていくことで、神様の恵みに立って園児との関わりをより豊かなものにしていきます。

2. 教育力の向上

青山学院が目指すキリスト教を基盤とした教育と、社会や時代の要請に応える教育力を充実・堅持するため、下記の取り組みを計画しています。

【大学】

・各学期末に実施している「授業改善のための学生アンケート」により授業毎に項目別の評価が行われ、教員は教育内容・方法について認識を新たにすることが可能となっています。上記アンケートに加え、外部専門機関に委託して「学生意識調査」を実施することで検証の客観性や精度の向上に努めていますが、2014 年度は、アンケートの回答内容と成績の相関関係を探るなど、カリキュラム改善や FD の資料が提示できるような検討・準備を行う予定です。また青山学院大学での教育をより実り多いものにするために学生と職員でディスカッションする「しゃべり場」を開催し、学生の目線からの提案をヒアリングできる機会を設け、教育方法の改善につなげます。

・学生が適切な授業科目を選択する上での指針となるよう、授業科目に番号を付して分類し、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み(科目ナンバリング)を検討しています。既に導入済の GPA 制度との相関関係等を分析することで、教育方法の改善につなげていきます。

【中等部】

・新校舎建て替えにより、全ての教科授業を教科専用の教室で行う「教科センター方式」に移行することで、教員を教室で「待つ」姿勢から、生徒は自主的に教室へ「向かう」授業への意識が育成されます。この方式を機能させるため、2014 年度より教科ごとに多様な教育環境や学習方法について検討・導入を行うなど準備を進め、基礎学力の充実と生徒一人ひとりの個性を伸ばす個々の学びの両立を図ります。

・基礎学力をしっかり身につけることは中等部の教育目標の一つです。授業の復習を中心に、生徒の自主的な自学習へのやる気を喚起し、生徒の誰もが楽しく学べる授業を実現するため、2014 年度も引き続き「英語」「数学」について、放課後に、学生アシスタントによる学習補助プログラムを実施し、学力の向上を図ります。

3. 一貫教育の充実

青山学院では、青山キャンパスに幼稚園から大学・大学院までを擁する総合学園として、一貫した「青山学院教育方針」のもと、「キリスト教教育」「英語教育」「国際交流」等を主な柱とした、学校の枠を超えた連携教育に力を入れています。2014 年度は下記の取り組みについて推進します。

1)各設置学校間の連携強化

【大学・女子短期大学】

総合学園としての特質を活かし、女子短期大学と大学が連携して 2014 年度より実施する「単位

互換制度」により、大学生及び短大生に学びの選択肢が増えることとなります。短大から大学への編入者にとっては、編入後の認定単位の拡充を図ることが可能となります。

【大学・高等部】

高等部と大学では、一貫校ならではの利点を活かし、高等部生の大学の授業への参加を可能とするシステムを構築するための話し合いを進めており、2014 年度は、2015 年度からの実施に向けて具体的な検討・協議を行う予定です。大学生と高等部が互いの存在を意識し、連携を強化する意味でも重要な取り組みであり、現在実施されている大学・短大の教員による「学問入門講座」とはまた違った意味で、知的探究心の向上にもつながることが期待されます。

【大学・女子短期大学・中等部】

中等部では大学・短大の教員による「短歌特別授業」「俳句特別授業」を実施しており、2014 年度で 4 回目となります。短歌の作り方のコツ、俳句の基本である季語の持つイメージや力などを学ぶだけでなく、すぐれた歌人・俳人でもある講師に自分の作品を見て貰い認めて貰うことは、生徒にとって貴重な経験であり大きな刺激となっています。生徒の国語力を高めるきっかけとなり、また、相手からの意見を聞いて理解し自分の考え方を論理的に伝える力となるこの一貫校ならではの貴重な取り組みを、生徒一人ひとりが相手を思いやりながらも社会で逞しく生きていくチカラ（人間力）へとつなげていくよう、2014 年度も推進していきます。

【初等部・幼稚園】

一貫教育の充実のため幼稚園と初等部の連携強化は重要です。幼稚園・初等部間の連絡会や情報交換会等交流行事の場を多く設けることで、相互に情報の共有と連携を図り、園児の幼稚園から初等部へのスムーズな教育環境の移行を促進していきます。

2）4－4－4 制英語一貫教育の実践

【高等部・中等部・初等部】

青山学院では「英語の青山」の特色をより一層明確にした質の高い授業の実施と円滑な連携を可能とするため、2008 年度より初等部から高等部の 12 年を 4 年毎 3 期に分けた英語教育を実践しています。使用するテキスト「SEED」は一貫して学内の教員が作成するという、国内でも他に例を見ないテキスト作成も、2014 年度が完成の年となり、高等部 3 年生が使用する BOOK12 を大学と高等部が連携して作成します。

4. 国際交流の活性化

140 年前、米国のメソジスト監督教会の祈りと援助から誕生した青山学院にとって、国際交流は長きにわたり教育の重要な柱の一つとなっています。2014 年度も、国際交流の更なる活性化を図り、世界をフィールドとしたグローバルな人材の育成を目指して、下記の取り組みを行います。

【大学】

・海外協定校短期受入プログラム開発、本学加盟コンソーシアムを通じての留学生受け入れ、ASEAN 加盟国のうちの未開拓地域協定校の開拓、ASEAN 特別受入奨学生制度の企画を推進していきます。多様な留学生を受け入れ、本学の留学生在籍比率を高めることで、キャンパス内の国際化を図り、また在学生と留学生の交流の機会を拡大することで、相互のコミュニケーション能力、異文化理解力の向上や留学への関心が喚起されることが期待できます。

・留学に必要な英語資格試験の一つである IELTS(International English Language

Testing System)講座のほか、本学教員がボランティアで行っていたTOEFL講座を外部団体（トフルゼミナール）と協同で実施し、英語資格試験への合格支援や英語圏への長期派遣留学に必要な英語力の養成を図ります。

・長期留学への動機付けともなる短期語学研修について、2014年度は、春期プログラム及び夏期プログラムに派遣先として需要の高い英語圏プログラムを追加し、充実を図る予定です。

・タイをはじめとする東南アジアへの留学促進を行います。グローバルセミナー、タイ研修後の成果報告会、学内留学フェアをとおして興味と関心を喚起していきます。

・2013 年度より大学の青山スタンダード科目として単位認定が認められた、オーストラリア・クリスチャンファミリー・ホームステイ・プログラムの実施を通じて、参加学生にキリスト教の体験的理解を促し、同時に異文化理解、英語力のスキルアップ、国際理解度の向上を目指します。また、フィリピン訪問プログラムを通じて経済的支援の必要な国の現状を理解し、貧困の問題、途上国への支援のあり方について現地体験を通じて学ぶことで学生の国際理解を高めていきます。

【高等部】

国際交流の中で「価値観の多様性（diversity）の共有」を目指す高等部では、イギリスのリースクール及びイタリアパスカル校との短期交換留学等に加え、世界的にも有名な伝統ある英国のパブリックスクールであるイートン校との交流を2012年度より実施しています。500年以上の伝統を誇る名門校との交流は参加生徒に強い印象を残し、言葉の壁を超えた相互理解を実感させるものとなっており、2014 年度も交流を更に深めていきます。ホームステイとして高等部生徒の家庭でイートン校生徒を受け入れ、国際交流委員会の企画したプログラムを体験してもらうほか、8 月には高等部生徒が教員引率のもとイートン校を訪問。寮に滞在して先方の主催するプログラムに参加し、また日本で受け入れたイートン校生徒宅に高等部生がホームステイを行うなど、双方の結びつきをより強固なものとしていきます。

Ⅱ. 環境の整備

1. キャンパスの再開発

青山学院は建学の精神の基盤であるキリスト教信仰にもとづく創立当初の理念を継承しつつ、140年という歴史をもつに相応しい特色ある総合学園とするため、キャンパスの再開発事業を進めています。2014年度も引き続き下記の取り組みを実施します。

1）教育課程移行後のキャンパスの整備

【大学】

2013 年度に実施した就学キャンパスの再配置は、4年間の学部教育課程を一つのキャンパスで完結させ、教育の質の向上や充実につなげ、学びの一体感と学生同士の一体感を醸成することを狙いとしています。青山キャンパスでは、17 号館に 3 つの特色ある目的別ラウンジを設置し、屋外には景観にマッチする木のベンチを多く設置するなど、限られた立地の中で学修と憩いの場の整備を進めており、一方相模原キャンパスでは、豊かな環境と現存の諸施設を有効活用しながら、設置学部の理念と専門性を考慮した環境整備を進めています。2014 年度も、両キャンパスの個性を活かしながら、学生の交流やキャンパスの活性化を促し、大学全体の発展につなげるための環境整備を行っていきます。

2）高等部校舎の建て替え

【高等部】

2008 年度より開始した高等部校舎の建て替えも、2014 年度をもっていよいよ完了を迎えます。メインアリーナ、サブアリーナ、プレイルーム、カフェテリア等、現在行っている第Ⅲ期工事のすべてを 8 月には完成させ、9 月から新体育館の運用を開始する予定です。

3）中等部校舎の建て替え

【中等部・法人】

2013 年度は建築コンセプトを決定し、設計者を選定しました。2014 年度は、施工業者を選定しつつ実施設計を固め、2015 年 3 学期より、準備工事、既存建物の解体、仮設工事等を行う予定です。2015 年 4 月より第Ⅰ期工事の開始を計画していますが、在校する生徒への教育環境維持を優先とし、仮校舎を使わず、段階的に校舎建て替えを進めていきます。

4）既存設備の整備

【法人】

・現在稼働している校外施設について、2013 年度に実施した調査結果をふまえ、2014 年度は学院としての施設の整備と有効活用を検討し、その基本方針を決定していきます。

・1931 年（昭和 6 年）に建築され、国登録有形文化財であるベリーホール内の「蔦の絡まるチャペル」としても知られた「チャールズ・オスカー・ミラー記念礼拝堂」について、歴史ある礼拝堂本来の厳かな美しさを維持するため、段階的な修繕計画を検討し、補修整備を進めます。

【幼稚園】

保育における園児の安全確保は、幼稚園として最優先の課題です。現時点で修理改善すべき箇所の点検と修理実施案の立案をするとともに、将来的に園舎の建て替えを行うため、学習会の実施や他園の見学等を行い、新園舎の建築構想を進めます。

2. 学生への支援

学生が安心して学業に励み、より充実したキャンパスライフをおくることを可能とするため、下記の計画を中心に学生支援を続けていきます。

1)学習支援

【大学】

・学生の自立的成長を促す多面的な支援体制を構築するため、大学では学年ごとに学生意識調査を実施し、その調査結果は、大学として蓄積し分析するだけでなく、学生個人へのフィードバック、フォローアップ講座の開催等により学生の支援につなげています。2014 年度も例年同様に、7 月に大学執行部及び各学部教授会等への報告会を開催、並行して全教職員を対象とした報告会を実施するとともに大学ホームページ上にも調査結果を公表し、FD・SD の側面からもこの貴重なデータの活用を図ります。

・本学では、新入生の大学生活への不安を取り除くため、新入生サポートの一つとして「オリエンテーション・チューター」を設けています。新年度の授業開始前のオリエンテーション期間に各学部の上級生が新入生の履修登録や学生生活の相談に応じることで、新入生にとって有効な学習支援となっており、2014 年度も引き続き実施します。

2)経済的支援

【学院】

学院では、在校生が経済面から学業を諦めることがないよう、青山学院スカラーシップの制度を設け、「奨学金募金」を募集し、給付奨学金として給付しております。中でも、寄付者のお名前を冠する「冠奨学金」には高い関心をいただき、その件数は年々増えており、2013 年度は 42 件の冠奨学金を実施し、330 名に給付することができました。2014 年度も、奨学金をただ給付するだけにとどまらず、給付奨学生からの感謝の言葉を寄付者にお伝えするなど、「寄付者と給付奨学生の絆」を結びながら、経済的支援の充実を図ります。

【大学】

2015 年度入学生より、青山学院大学に入学を希望する首都圏以外の出身者で、学業成績が優秀であるにも関わらず経済的理由で進学が困難な学生に経済的支援を行う「青山学院大学予約型給付奨学金」（名称：地の塩、世の光奨学金）を導入することとなりました。この有意義な制度が受験生に活用されるよう、2014 年度は広く周知を図ります。

【大学・女子短期大学】

青山学院大学及び女子短期大学では、被災された在学生の方が、震災の影響によって勉学の道を断たれることがないよう、引き続き「2014 年度授業料減免等による特別措置（経済支援）」を講じ、被災状況に応じて授業料の減免を実施します。

【初等部】

初等部では、保護者への経済的支援を目的とした奨学金制度の確立を検討しています。2013年度に行った原資の確保や制度の実施についての調査・検討をふまえ、2015 年度の施行を目指し、2014年度は手続きや受給資格の検討等を進めていく予定です。

3)進路・就職への支援

【大学】

・インターンシップは、在学中に職業観を醸成し、目的意識を明確にできる貴重な機会です。グローバル化が著しい中、国内のみならず海外を対象としたインターンシップ制度の強化は、非常に重要なものとなってきています。2014 年度は、そのために関連部門と課題や方向性の確認・検討を行い、2015 年度に向けての連携基盤の構築と強化を図ります。

・本学の就職率は、主要私立大学の中でトップクラスに位置しています。2014 年度も青山・相模原両キャンパスにおいてキャリアカウンセラーを複数名配置し、ハローワークとの連携強化（連絡協議会設置）等外部機関とも協同していくことで、進路・就職への支援のさらなる強化を図ります。

・青山スタンダード教育機構では、文部科学省平成 24 年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に採択された「産業界のニーズに対応したカリキュラムの開発・体系化」に取り組んできました。最終年度となる 2014 年度は、取り組み結果を総合的に纏め、キャリア教育カリキュラムの体系を構築する予定です。

【女子短期大学】

進路・就職支援行事と「キャリア・ライフ・デザイン（CLD)科目」との連携を 2014 年度も継続して強化し、学生のニーズに合った就職支援体制と行事内容を検討し実施するとともに、2013 年度に開室したキャリアサポートルーム(キャリアカウンセラー常駐)においては、更に学生のキャリア形成をきめ細やかにサポートしていきます。また、ポートフォリオシステムである「ルーチェフォリオ

（LUCE FOLIO）」による求人票の閲覧・情報提供、インターンシップ、就職担当による就職ガイダンスやセミナー、就職内定者との懇談会等、幅広くキャリアサポートを展開していきます。

3. 教職員への支援

青山学院の発展のために教職員の資質向上は重要であり、学内では多岐にわたる研修や取り組みが実施されているほか、学外の研修へも多くの教職員が参加しています。

【法人】

社会を巡る環境が大きく変化する中、教育機関として学院が発展するためには、事務職員の資質の向上を図ることが重要な要件の一つとなります。SD（職員の資質向上のための組織的取り組み）への要請も年々高まっており、本学院では「青山学院の職員に必要な能力・知識等」を明確に示し、学校運営・経営全般を先導できる職員の育成のために、研修制度の充実に努めています。所属部署や年齢を超えた議論の場であり、常に学校の役割と自身の業務とを結び付けて考えるために、2013 年度は学内での課題共有や改善提案等を行う「青山塾」を実施したほか、学外機関への長期出向研修制度も開始しました。2014 年度も社会のニーズを積極的に学校運営に取り入れるこうした取り組みを引き続き行い、学校運営・経営のガバナンスを担う職員の育成に取り組みます。

【初等部】

社会的に近年数を増している発達障害等児童対応の勉強会を実施し、児童への教員の理解を深めるとともに、専門カウンセラーとの情報交換を随時行い、現場の学級運営、学習指導、その他の児童との関わり方について研修することで指導者・教育者としてのスキルを高めます。また、定期的にいじめ防止策の勉強会を実施し、いじめ防止の基本方針の作成を行うなど、教職員の意識の強化を図ります。

【幼稚園】

キリスト教保育の内容を充実させるためには、保育の組織的な質的点検が重要です。キリスト教保育を実践する幼稚園として必須であるキリスト教保育連盟主催のキリスト教保育研修をはじめ、有効な研修に組織的に取り組み、保育者全員が公平に参加し研鑽できるシステムを構築します。また研修内容を全員が確実に情報共有することで、よりよいキリスト教保育の実践につなげていきます。

4. 学院史編纂と学院史資料展示への取り組み

1874 年以来 140 年の伝統を持つ青山学院の歴史を広く社会へ周知することは、学院への理解と関心を高め、ひいては学院の更なる発展にもつながると考えています。

【学院】

・2024 年の創立 150 周年に向けた記念事業の一環として『青山学院 150 年史』（仮称）発刊の準備を進めています。2014 年度は執筆体制を検討し、また関連資料の収集方針を固め、資料センター所蔵資料を含む必要な資料の収集を進めます。

・2014 年 11 月の青山学院創立 140 周年記念式典に向けて、学院草創期からの貴重な資料を見学できる展示室の開室に向け、準備を進めています。先人の知恵や苦労に向き合い歴史や伝統を感じられる場として、また、過去と現在を未来に引き継ぐ場として最適なものとなるよう、取り組みを進めていきます。

Ⅲ. 戦略の強化

1. 危機管理

青山学院では「安全に安心して」過ごすキャンパス運営を目指しており、2014 年度も、災害時における防災体制の強化と、コンプライアンスにもとづいた危機管理や安全衛生対策への取り組みを継続して行います。

1）大災害対策

【法人】

・2013 年度は、各学校で行っている防災訓練で、地震発生時に園児・児童・生徒・学生と教職員が安全確保のための的確な行動をとれるよう、全設置学校に導入した「緊急地震速報」システムを活用し、教職員・学生等にシステムの周知を図るとともに、防災意識の向上に努めました。2014 年度は、その結果を踏まえ、災害時の均一な情報伝達を安定的なものにできるよう設備整備の改善を図ります。

・災害時に園児・児童・生徒・学生に対するキャンパス内での安全・安心を確保し、同時に帰宅困難者の受入れなど社会的使命に取り組むためには、教職員の大きな働きが必要であることから、教職員の安否確認システムを導入しました。2014 年度はこのシステムを活用した防災訓練を実施するなど、実際の災害時を想定した防災体制の強化に努めます。

【法人・大学】

揺るぎない危険管理体制を目指し、過去の検証結果等を踏まえ「地震発生時対応マニュアル」を 2013 年 10 月に改訂しました。2014 年度は、このマニュアルに則した防災訓練を実施することで、大地震の発生時に混乱を防止し、早期に学内に滞在する学生・生徒・児童・園児・教職員の安全を確保することが可能となるよう、検証を進めます。

【女子短期大学】

女子短期大学では、災害発生時に速やかに安全を確保し、適切な判断にもとづく行動がとれるよう、学生・教職員が一体となった避難訓練を実施しています。2014 年度は、これまでの訓練実施経験をふまえた災害時の行動手順の確認や緊急地震速報を利用した防災訓練の実施により、訓練の実施形態の改善を図ります。

2）安全衛生対策

【法人】

教職員の安全衛生対策は、安定した教育力を維持するため必要不可欠です。従来から安全衛生委員会の取り組みをとおして、労災防止、安全・健康の確保に努めてまいりましたが、青山・相模原両キャンパスの安全衛生委員会の連携体制強化等同委員会の活性化、および管理職研修や WEB 研修システム等各種研修をとおして教職員の安全衛生への理解を一層深めることで、より快適な教育環境の形成につなげていきます。

2. 財務力の強化

キャンパスの整備事業や教育研究のさらなる充実・発展のためには、基盤となる財務力の強化が必要であり、青山学院では、中長期的な視野に立っての財政運営に取り組んでいます。収入面では、外部資金の積極的な導入、競争的補助金の獲得、「青山学院 エバーグリーン募金」をはじめとする寄付金の積極的な受入推進、リスクとリターンに配慮した効率的な資金運用等、帰属収入の

安定的確保を目指します。また支出面では、過年度の予算や実績にとらわれることなくゼロベースで経費の徹底した見直しを行うとともに、コスト削減につながる業務の効率化を推進し、帰属収支差額の拡大に努めてまいります。

【法人】

・2013 年 4 月より財務部に補助金課を設置し、私立大学等経常費補助金等の申請について、日本私立学校振興・共済事業団、文部科学省、東京都及び東京都私学財団との交渉や学内関連部署の取りまとめ、相談対応等、補助金関連業務の効率化を進めるとともに、最新の動向や仕組みについて情報収集・提供をすることで、より積極的で適切な補助金申請が可能な体制を確立しつつあります。2014 年度もこのような取り組みを通じ、補助金収入の拡大に努めます。

・青山学院エバーグリーン募金では、寄付される方々の利便性を高めるため、インターネットから寄付ができる環境を整えました。2014 年度は、青山学院エバーグリーン募金の経常型募金の一つとして、寄付者が使途を指定できる（教育・研究活動支援、国際交流活動支援、ボランティア活動支援、スポーツ活動支援）「使途指定型募金」を実施し、さまざまな機会をとらえ、ご支援をお願いしていきます。また、青山学院エバーグリーン募金の柱の一つである青山学院維持協力会募金については、2014 年度も引き続き、会の存在と目的をご理解いただき会員数の増強に努めていくとともに、長きにわたるご支援に対し、顕彰制度や特典の整備をしていきます。

3. 組織・運営体制の強化

長きにわたり多くの先人が築いてきた伝統を守りつつ、学校を取り巻く環境の変化や社会的要請に対応し、青山学院の新しい時代を確立するために、さまざまな角度から組織・運営体制の強化、整備に取り組んでいきます。

1)広報体制の強化

【大学】

・大学広報においては、基本情報はもとより学術の中心として学問研究の情報を収集し、ステークホルダーと社会については、発信する情報ごとにターゲットを絞り、効果的な広報を実施することが重要です。2014 年度は、大学執行部による施策、広報戦略の進捗確認と今後の効果的な実行計画を策定していくことで、未来につながる大学広報戦略の充実を図ります。またモバイルサイトをよりタイムリーで見やすいものにすることで、効果的な広報を展開します。

・教員や研究成果に関する情報は、大学の情報開示において特に重要視されていることから、科学技術振興機構が提供する日本最大の研究者情報データベース ReaD&Researchmap と本学の研究者情報データベースの連携を強化し、外部に向けて効果的な情報発信を行います。

【高等部】

高等部では帰国生を積極的に受け入れており、生徒の国際理解の促進や価値観の多様性の共有につながるなど、様々な相乗効果が見受けられます。「帰国生に期待する力」を有する生徒を獲得するためには受験生の確保が重要であるため、2014 年度も海外での学校説明会を実施し、本学の魅力や正確な情報を伝え、また現地で直接的なコミュニケーションを図っていくことで、積極的な広報活動を進めていきます。

【初等部】

初等部では、「誰でも気軽に手にし」「誰の目にも留まる」広報の展開を目指して、2013 年度より「初等部だより」を発刊しています。2014 年度は、保護者の意見も取り入れ、将来的に外部へも

発信可能な媒体とできるよう検討を進めます。

2）企画立案機能の強化

【大学】

大学執行部が「より効率的で戦略的な大学運営や意思決定を行う」ため、IR 機能の強化等、大学内外に関する諸データの収集・分析や、将来構想を企画・立案する機能の強化は必要不可欠となっています。2014 年度は大学政策・企画部において、「学長基本方針」の進捗状況をしっかりと把握し、執行部と協議を重ねながら今後のロードマップを作成・検証していくことで、企画立案機能の強化を図っていきます。

3）情報系の整備

【学院・大学】

・2013 年度に開設された情報メディアセンターでは、青山学院の情報環境に係る施設、設備等の企画・導入及び管理運用に加え、ICT を活用した授業の支援や情報基礎教育の実施等を行っています。2014 年度は、新たな認証システムの導入を含めた教育研究系・事務系のシステムリプレースを行い、さらなる教育学習支援と情報教育環境の整備を図ります。

・情報メディアセンター開設の目的の一つである「ワンストップサービスの充実化」に向けて、関連施設のレイアウトや関連部署の業務の点検・見直しを行い、より効率的にサービスが提供可能な教育学習環境の構築を進めます。

・情報メディアセンターの教育工学や情報科学の専門の教員と、学部・学科等の教育を担っている教員が協働してICTを活用した教育を開発していくという趣旨のもと、「教育研究支援プロジェクト」が2013年度より本格的に発足しました。2014年度は、このプロジェクトの規模拡大を視野に入れ、支援体制の強化に取り組みます。

4. 校友との連携強化

財政支援や学生・生徒との関わりをとおしての支援等、校友からの貴重なご支援は青山学院の発展に欠くことができないものです。2014 年度も下記のような取り組みを進め、校友との連携強化を図ります。

【女子短期大学】

卒業生の方々の愛校心を大切にし、同窓会との連携を強化していくため、新旧学科の卒業生の再区分等、改めてホームカミングデーの在り方の検討・見直しを行います。新たなホームカミングデー制度の実施案の作成を進めることで、制度の活性化と充実化を図ります。

【中等部】

「一人ひとりの生徒の人格を育み、その自己実現を支える」ため、卒業生を中心とした各界で活躍する人々の講演を実施します。講演をとおして、在校生が現在の自分と将来の自分の姿をイメージし、中等部での取り組むべきことへの気づきや課題に対しての自主性の醸成を促すことを目指します。

【初等部】

2013 年度、青山学院大学のマスコット「イーゴ」のファミリーとして、初等部マスコットの「ミニーゴ」が誕生しました。恒例行事の活性化や広報活動の促進を図るため、2014 年度は、積極的に「ミニーゴ」を活用していきます。マスコットの存在を一つのきっかけとして、学内のみならず、校友の方々をはじめ外部にも、初等部の活動をより広く知ってもらう機会の増加を図っていきます。

Ⅳ. 140 周年 記念事業の実施

青山学院は、米国のメソジスト監督教会が世界伝道の一環として、近代化の波頭にあった明治初期の日本に送り出した 3 名の宣教師が創立した 3 つの学校を源流としており、本年 11 月に創立 140 周年を迎えます。これを記念し、学院では、140 周年を 10 年後の 150 周年という大きな節目に向かって新たなスタートをきる大切な周年と位置づけ、取り組みを進めています。150 周年に向けて学院のコミュニケーション活動において視覚的なイメージを形成する核として、キリスト教教育の歴史と誇りを感じさせる「ロゴ」と、140 周年を起点として 150 周年に向けたさらなる飛躍を表す「ロゴマーク」を決定して既に展開を始めているほか、今後、様々な記念行事や事業を行う予定です。

《主な記念行事・事業》

・創立 140 周年記念礼拝　日時:11 月 15 日(土)13:00　場所:青山学院講堂
・創立 140 周年記念式典　日時:11 月 15 日(土)15:00　場所:青山学院講堂
・創立 140 周年記念祝賀会　日時:11 月 15 日(土)17:00　場所:アイビーホール
・青山学院歴史資料展示　(期間未定)　場所:資料センター
・特別公開講座「青山学院の礎石を築いた人々」(全 5 回)
　日時:9 月 27 日～10 月 25 日までの毎土曜日(時間未定)　場所:17310 教室
　学院の基礎を築いた 5 人の方々(スクーンメーカー、ソーパー、マクレイ、ガウチャー、津田仙)について、青山学院の歴史の中で果たした役割等を紹介していきます。
・書籍出版「青山学院の歴史を支えた人々」(仮称)　刊行:11 月予定
　『青山学報』に連載中の「青山学院の歴史を支えた人々」を、執筆者である 氣賀健生 大学名誉教授が補筆し、単行本化します。
・AERA ムック「青山学院」　刊行:11 月予定
　歴史と伝統に育まれ、未来へと受け継がれていく青山学院の魅力を、教育と研究、卒業生・在校生の活躍などから多面的に紹介するムック本を刊行します。
・オラトリオ・ソサエティ OB・OG 合唱団メサイアコンサート
　日時:11 月 8 日(土)(時間未定)　場所:相模原キャンパス ウェスレー・チャペル
・短歌コンクール
　『青山学報』誌上で毎年行っている「青山歌壇」の規模を拡大し、140 周年にふさわしいテーマで作品を募集します。
・東日本大震災被災地宮古応援プログラム
　学院と各設置学校では様々な被災地支援を行っていますが、設置学校を横断する社会貢献活動として、女子短期大学を中心に大学・高等部が協力し、8 月に宮古応援プログラムを実施する予定です。
・中等部 国際交流講演会(講演者:姜尚中 聖学院大学学長)
　日時:2015 年 1 月 22 日(木)15:00　場所:青山学院講堂

この他にも、学院の歴史を振り返り未来を見つめる機会として、また、ALL 青山の絆を確かめる場として、在校生や校友の記憶に残る行事や事業を実施していきます。

〈補足事項〉

P.3 からP.12 に掲載されている事業計画内容について、法人執行部及び本部事務部署にて行う計画のうち、「教育・研究・学術」に係る計画については【学院】、「経営・管理」に係る計画については【法人】と表記しています。

学校法人青山学院 2014年度事業計画

命題数字	青山学院が探求すべき命題	課題数字	命題を構成する柱となる課題	長期計画	中期計画	事業計画	担当部署	SQ
Ⅰ	人間教育の再創造	［Ⅰ］	キリスト教教育の促進	キリスト教教育の社会における実践	「共生委員会」を通じてグローバルな視点からこの世の様々な問題に目を向けるための啓蒙活動の展開及び新規プログラムの設置	岩手県立宮古高校(被災地の高校)との交流	高等部	1
						チャイルドファンドジャパン・フィリピン訪問プログラムへの参加	高等部	2
					キリスト教活動の見直しと充実	2013年度教育課程の移行に伴うキリスト教活動の見直し（青山キャンパス）とキリスト教活動の活性化（相模原キャンパス）	法人（宗教センター）	3
						学院創立140周年記念式典に向けた準備	法人（院長・宗教センター）	4
					教職員対象の聖書研究・スモールグループの形成等方法論の確立	教職員聖書研究や祈りの会の実施	幼稚園	5
		［Ⅱ］	教育・研究の活性化と充実	教育研究への情報通信技術の活用	情報通信システムの整備と安全な運用および情報管理・運用システム機能の強化	教育・研究環境の高度化と充実を図るための情報体系の整備	情報戦略推進委員会	6
				情報環境の充実と情報基礎教育の強化	情報メディアセンターによるワンストップサービスの実現と情報基礎教育の強化準備	ワンストップサービスの充実化に向けた点検・調整と青山キャンパスにおけるワンストップサービス提供開始の準備	情報戦略推進委員会	7
						生徒に対する放課後の学習サポート体制の検討	中等部	8
					新校舎における教育環境の整備・改善	教科型教室環境における新しい教材、教育ツールの調査・検討	中等部	9
		［Ⅲ］	一貫教育の推進	一貫制英語教育の強化	SEED BOOK10-12 完成	SEED BOOK12の完成	高等部	10
				設置学校間の連携強化	短・大連携：編入学枠の発展的拡大	大学へ短大生受講可能科目検討依頼	短大	11
				設置学校間の連携強化	高大連携：高等部生の大学への授業の参加を可能とするシステムの構築	高等部生が大学の授業への参加を可能とするシステムを構築するための具体策検討	高等部	12
					幼稚園との連携強化	幼初連絡会・交流行事の充実及び情報交換の強化	初等部	13
					初等部との連携強化	幼初連絡会・交流行事の充実及び情報交換の強化	幼稚園	14
		［Ⅳ］	国際理解教育の推進	国際交流の強化	世界をフィールドとしたグローバル人材の育成支援	海外への留学を促進するための語学・文化研修等の充実	大学	15
					留学生受入プログラムの拡充	海外留学生受入プログラムの多様化と充実化	大学	16
				国際交流の強化	海外の学校との交流の充実	英国イートン校との交流	高等部	17

命題数字	青山学院が探求すべき命題	課題数字	命題を構成する柱となる課題	長期計画	中期計画	事業計画	担当部署	SQ
Ⅱ	環境の整備	[Ⅰ]	キャンパスの整備	安全と機能性を重視した施設環境の整備		将来的な幼稚園舎建替えを見据えた、新園舎建築構想の開始	幼稚園	18
				青山キャンパス再開発	新図書館棟建設	建築に係る確認他必要な手続きの検討	大学・法人（法人執行部・総合企画部）	19
				青山キャンパス再開発	高等部校舎建て替え	第Ⅲ期体育館工事	高等部	20
				青山キャンパス再開発	中等部校舎建替え計画	実施設計の策定、施工業者の選定、第Ⅰ期工事開始への準備・仮設等	中等部・法人	21
				『青山学院150年史』（仮称）の発行		『青山学院150年史』編纂事業のうち、『資料編』（仮称）作成のためのサポートをする	法人（資料センター）	22
					歴史博物館相当施設設立の検討	間島記念館での展示	法人（資料センター）	23
				校外施設・学生寮等の整備	校外施設の見直し	校外施設の現状と方向性の確認	法人（法人執行部・総合企画部）	24
		[Ⅱ]	学生等への支援	学生の教育・生活環境の改善	学生支援ネットワークの強化	学生意識調査にもとづく学生支援体制づくり	大学	25
				進路・就職への支援		国内・海外を含めたインターンシップに関する他部門との連携体制の構築	大学	26
				進路・就職への支援	キャリア・ライフ・デザイン科目との連携	キャリア・ライフ・デザイン科目の内容を補完する就職支援行事・講座の実施	短大	27
					経済的支援体制の確立として奨学金の充実を図る	奨学金給付制度実施に向けた体制の整備	初等部	28
		[Ⅲ]	教職員への支援	研修活動の支援	専任教員の研修（内・外）の充実	発達障害児童対応の勉強会を企画	初等部	29
					教職員の研修(内・外)の充実	年間の研修スケジュール策定とバランスのとれた出張・参加の検討	幼稚園	30
Ⅲ	戦略の強化	[Ⅰ]	ガバナンスの強化	危機管理に関わる様々な取り組みの実践	大災害対策の整備	安否確認システムを活用した防災訓練の実施	法人（総務部）	31
						導入された緊急地震速報の活用に向けた整備	法人（総務部）	32
					労働安全衛生管理体制の整備	安全衛生委員会のさらなる活性化	法人（総務部）	33
				危機管理に関わる様々な取り組みの実践		避難訓練の規模拡大と危機管理マニュアルにもとづく避難訓練の充実	短大	34
				大学執行部の機能の充実	企画立案機能の強化	政策・企画部の機能強化	大学	35
		[Ⅱ]	財務力の強化		青山学院維持協力会の会員制組織、制度の充実	青山学院維持協力会の会員増加の施策	法人（募金事業局）	36
						青山学院エバーグリーン募金「使途指定型募金」の実行	法人（募金事業局）	37

命題数字	青山学院が探求すべき命題	課題数字	命題を構成する柱となる課題	長期計画	中期計画	事業計画	担当部署	SQ
Ⅲ	戦略の強化	［Ⅲ］	広報の充実	効果的な広報の実践	大学広報体制の確立	大学戦略広報部門の設立（大学戦略企画と広報の充実）	大学	38
						法人広報部が着手しているWebサイトリニューアルへの協力（受験生向けモバイルサイトの充実を含む）	大学	39
				効果的な広報の実践	紙媒体等による保護者・卒業生に対する広報	初等部だよりの発刊	初等部	40
				「教育力」「就業力」等のブランドイメージの強化	教員の研究活動等に関するデータベースの充実と効果的な情報発信	研究者情報データベースと外部データベース（ReaD&Researchmap）との連携強化	大学	41
					海外向け広報の充実	教員による海外での広報活動	高等部	42
		［Ⅴ］	生涯学習の充実		中等部在学生徒の社会力強化	社会で活躍する人々から、自分の将来や働くことの意味を考える機会を与える	中等部	43
		［Ⅵ］	校友との連携強化・愛校心の育成	卒業生との連携強化の検討による新たな制度の確立	ホームカミングデー制度の見直しと更なる内容の充実を図る	新学科を含んだホームカミングデー制度の今後の実施案作成	短大	44
					愛校心の育成強化	初等部マスコットの活用	初等部	45

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

【青山学院スクール・モットー】

学校法人 青山学院　2014年度事業計画書

（問合わせ先）本部 総合企画部 03(3409)6384 内線 11338

※学院HPからもPDF形式にてご覧いただけます

ホーム ＞ 青山学院の基本情報 ＞ 青山学院のデータ ＞ 財務状況 事業計画書・事業報告書

2014年3月27日 理事会承認 （2014年4月発行）